

【生薬名】 紫菀 *ASTERIS RADIX ET RHIZOMA*

【起源植物】 シオン *Aster tataricus*



【科名】 キク科 *Compositae*

【別名】

【薬用部分】 根および根茎

【主成分】 シオンサポニン

【薬性】 気味は辛苦温、帰経は肺に属す

【効能】 ●止咳化痰

●主に慢性の咳嗽で多痰の時、出してもスッキリしない時によい

●1日3～10g、水500mlで半分に煎じて3回に分けて飲む

●咳止め、痰切りに、1日3～5gを煎服

●風邪などで永く咳が止まらない時にもよい

●

●

【出典】 ●紫菀 苦辛、痰喘欬逆、肺痿吐膿、寒熱ならびに齊す。(薬性歌)

●治欬逆上氣. 胸中寒熱結氣. 去壘毒癢癩. 安五藏. (神農本草經中品)

【備考】 ●紫菀は滋潤剤ではないので肺陰虚で乾咳・口乾など虚火上炎の症状には用いない方がよい。

●紫菀成分にエールリッヒ腹水がんに対する抗ガン作用がある事が知られている

【処方例】 ●射干麻黄湯、杏蘇散、紫菀散、止咳散

●